

茶道のもつ力

昌平高等学校二年（埼玉県）

太田 采杏

二月二十四日、世界は一変した。ロシアによるウクライナ侵攻の始まりである。世界中でどのくらいの人々がこの侵攻が現実を起こるだろうと予測しただろうか。平和、それは当たり前でないことを世界中に叩きつけた。

人間の歴史では、戦が繰り返されてきた。ほとんどの時代に戦はついて回り、勉強するたびに心が痛んだ。また、曾祖父が出兵して捕虜となり人生が一変したことを聞いた時は心が苦しくなった。広島、長崎に投下された原爆の惨状を勉強し、記念館に行き、戦争、核爆弾の残酷さを知った。

世界をみると、私が生まれてからもなお、内戦や戦争が続く地域があり、世界が平和ではないことは理解していた。しかし、つい先日まで私たちと同じような生活をしていた人たちが、突然戦争に巻き込まれるなんて思いもしなかった。広島、長崎の原爆投下後の街路や、東京大空襲の焼け

野原と同様の映像が、現在の映像として映し出されたことは衝撃だった。街から色を奪っていく悲惨な光景である。「戦争」は過去の話ではなく、現在も進行中だと言うことを痛感させられた。

戦争の背景には、文化、宗教、政治などのあらゆるものが絡み合い簡単に解けるものではない。しかし、私たちに心がある。歩み寄り、理解し合う心がある。その心は、穏やかさ、冷静さの中に生まれるのだと思う。人はときに感情的になったり、当初は冷静だったものの惨状を見て感情が荒れ狂い、判断を見誤ったりすることもある。そこで、心を落ち着かせ、豊かにするものが必要となる。その一つに「茶道」があると私は考える。お点前を通し、もてなす側、もてなされる側の心を鎮めることが出来る。心を鎮めた状態で物事を考えたり、相手の立場になって考えてみたりすることで、冷静な判断が出来るのではないか。こんなときだからこそ、私たちの心を癒やしてくれる存在、茶道が必要なのではないだろうか。

私にとって、茶道は貴重な時間である。茶道を始めてまだ一年しか経っていないが、この一年でお作法をはじめ、様々なことを学ぶことが出来た。勉強で挫折したとき、コロナ禍で当たり前のことが出来ない生活で気が滅入っているとき、私のことを助けてくれた。茶道が心を落ち着かせ、冷静に何をするべきかを考えさせてくれた。今の私が保た

れているのは生活の一部に茶道という存在があるおかげだ
と思う。来年は受験が待ち受けている。今までに経験した
ことのない壁にぶち当たることもあると思うが、そんなと
きこそ私は茶道と共にありたい。そして、時に助けてもら
いたいと考えている。

茶道は日本の文化であるが、世界中の多くの人たちにも
浸透して心を癒やしたり、冷静さを取り戻したりする存在
になってくれたらと思う。そして、平和の砦の一つとなっ
て欲しい。そのために、私は日々精進し、お点前を磨き、
いつでも、誰にでも、茶道を通して気持ち豊かにする、
そんなおもてなしができるようにしていきたい。立ち止まっ
ている時間はない。積極的に進め、機会をつくり広めてい
きたい。